

漆芸美術館だより



山岸一男《金銀象嵌漆箱「行く河」》2008年 第25回日本伝統漆芸展 第25回展記念賞（個人蔵）

96

彫りを彩る 一人間国宝 山岸一男の世界—
INSIDE INSIDE 一開ける楽しみ・広がる世界—
石川県輪島漆芸美術館・浦添市美術館友好提携30周年
石川県輪島漆芸美術館友の会 日帰り見学会実施報告
イベント情報・展覧会関連グッズ

2022年9月17日発行

彫りを彩る

人間国宝

山岸一男の世界

2022.

9/17^土-11/6^日 会期中無休

2018年に重要無形文化財「沈金^{ちんきん}」保持者に認定された山岸一男氏は、1976年に日本伝統工芸展に初入選を果たして以来、長きにわたって公募展への出品を重ねてきました。その間、沈黒^{ちんこく}や沈金象嵌^{ちんきんそうがん}、螺鈿^{らでん}など、幅広い技法と卓越した技、考え抜かれた意匠によって新たな表現を切り拓いてきました。本展覧会では、山岸氏の作家としての歩み、技と作品の魅力をも、全59点の作品によってご紹介します。

はつらつとした初入選作

近作では、線彫による直線を縦横斜めに彫った幾何学的な模様を重ね、それぞれに異なる色を入れる、緻密な計算と彫りの正確さを要する意匠が印象的ですが、親方の下における修業で培われた高い技術が創作を下支えしてきたことはいまでもありません。

沈金^のは鑿^{のみ}とよばれる刃物で文様を彫り、彫り跡に漆を摺り込んだ後、金粉などを定着させる技法です。22歳のときに、日本伝統工芸展へ初入選を果たした《沈金草花文色紙箱》(写真1)には、伝統的な沈金の技術の確かさが認められます。緻密な点彫によって表されたナナカマドの花は、はつらつとしたエネルギーを放ち咲き誇っています。葉は表面を荒らすように浅く彫るこすりとよばれる刀法を用い、金の量の加減により画面に奥行きや抑揚を与えるなど、すでに練度の高さがうかがえます。

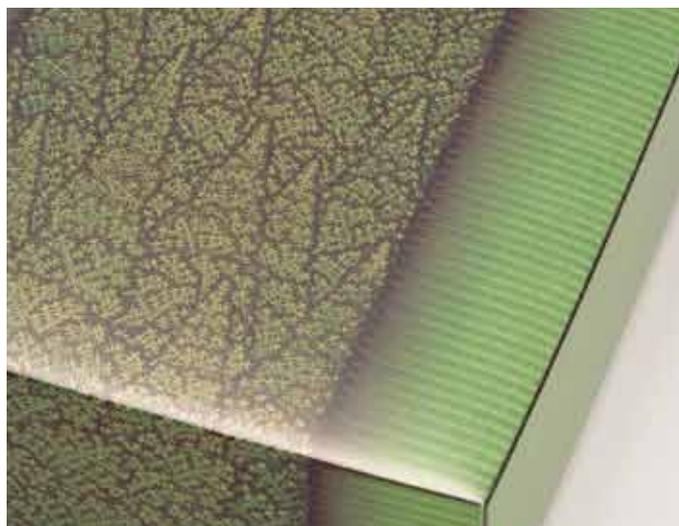


(写真1) 《沈金草花文色紙箱》
1976年第23回日本伝統工芸展
個人蔵

意匠と技法の展開

意匠と技法のバリエーションは山岸氏の作品の魅力の一つです。本展覧会では、山帰来、合歡、ホオズキ、烏瓜など多彩な植物を主題とした作品を展示します。これらのモチーフに対し、適材適所に応用された技法の数々も着目すべき点です。作品ごとに現れる試行錯誤は、制作の幅広い展開へつながっていく布石になっているのです。

《金銀象嵌漆箱「行く河」》(表紙)は黒部峡谷で見た湖面に映える水鳥の波紋と、川の流れを箱の形状に合わせて構成した作です。重なり広がる



(写真2)《漆象嵌文箱「若緑」》(部分)
1996年第43回日本伝統工芸展
個人蔵

波紋は彫り溝に銀粉を密度高く埋め込み盛り上げた浮線象嵌としています。長側面には流水を金と銀の象嵌による連珠文で表し、高さを生かした文様の連続性で絶え間ない流れを感じさせています。これと同様の技法が《漆象嵌文箱「若緑」》(写真2)をはじめ複数の作品に共通する数珠繋ぎの線にみられ、縞や同心円状といった幾何的な使用から、有機的な波の文様に応用されたことがわかります。

悠然たる風景をテーマに

近年においては、故郷・能登をはじめとする風景を題材にした作品が評価され、代表作となるまでに至っています。抽象化された情景には人の営みが相まみえ、万人の心に訴えかけるものがあります。

《漆象嵌盤「あきいろ」》(写真3)は夕暮れの横浜港を題材とした作品です。中央から順に折り重なるように、色漆のグラデーション、呂色仕上げの黒漆の帯、くまなく彫りを施した沈黒が上下の際にまで現れます。朱から紫へと変化する色漆の階調は台風が近接した怪しくも美しい水平線で、濃紺の色漆と交互に現れる不規則な金の破線は闇の深まりとともに浮かび上がる港の街灯です。幾何学的な均衡のとれたデザインに、偶発的なリズムがアクセントとなっています。



(写真3)《漆象嵌盤「あきいろ」》
2015年第32回日本伝統漆芸展
個人蔵

本展覧会では一つの作品の完成までを追った特集コーナーも設置します。併せてご注目ください。
(寺尾藍子)

【クロストーク】

山岸一男×寺尾健一(工芸史家)
山岸氏の創作の歩みと作品の見どころについて、対話形式でお話しいたします。

日時：9月25日(日) 14時～15時30分
会場：当館講義室(参加無料)

定員：50名 予約受付中

*お電話でお申し込みください

☎0768(22)9788

INSIDE | 開ける楽しみ・広がる世界 |

2022年11月12日(土)〜2023年1月9日(月・祝) *年末休館12月29日(木)〜31日(土)

漆芸美術館では様々な作品を展示しています。形や構造によつては、蓋や扉が設けられたものがありますが、作品全体の造形や表面の加飾をご覧いただくため、多くの場合は閉じて展示しています。しかし、中がどんな造りになっているのだろうか、あるいは、どんな絵が描かれているのだろうかと気になったことはありませんか？本展はそんな思いにお応えする展覧会です。

発端はコロナ禍でした。新型感染症流行に伴う外出自粛が求められた2020年5月、当館はオンラインによる作品紹介動画の配信

を始めました。おうちの中(INSIDE)にいながらにして、普段はお見せしていないような作品内部(INSIDE)をご覧いただける動画「INSIDE INSIDE」が生まれたのです。

この度の展覧会は、いわばオンラインからリアルへの逆輸入です。内部の姿への興味を満足させるとどまらず、ここから意外な魅力や、新たな作品世界の展開が生まれる様子をご紹介しますと思います。

前史雄氏の《沈金春愁文漆箱》(写真1)は今回のテーマにぴったりの作品です。甲面か

ら四側面へと枝垂れた桜の花は、やや裾広がり、蓋の表面で、ピンクから赤へと色漆によるグラデーションがつけられています。重なりあう花は、一つずつ沈金でくくられて奥行きが感じられ、満開の桜の静かな場面となっています。

この作品の蓋を取ってみると場面は一転、散り落ちた桜の花びらがすでにたくさん地面に積もっていることが分かります。小鳥たちの群れがその羽ばたきによって散った花びらを舞い上げ、躍動感に満ちたシーンへと急転換しました。

翼や頭の向きなど変化に富む姿態を見せる小鳥たちは、漲る生命の象徴です。一方、爛漫の時をすでに迎えた桜は、この先散りゆくばかりでしょう。作品に名付けられた「春愁」の心情は、蓋を取った後にこそ見る者の胸に迫ってくるのです。

このほか、思いがけないところが開く立体造形作品や、中をみると素地の造りが分かる作品などを展示いたします。普段とは違った視点から作品を鑑賞していただく試みをぜひ体験してみてください。

(細川貴久美)

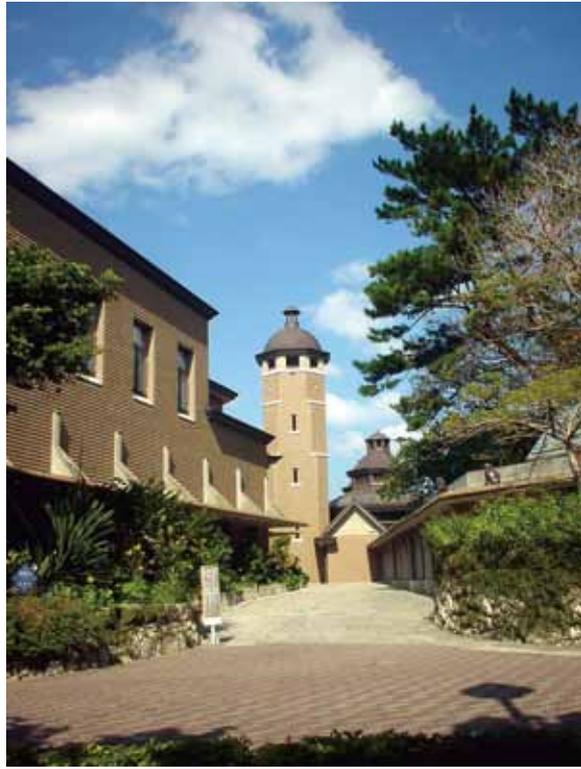


(写真1) 前史雄《沈金春愁文漆箱》
1989年第36回日本伝統工芸展
上写真：蓋を閉めた姿
下写真：蓋を外した姿



動画「INSIDE INSIDE」はこちらから

▼石川県輪島漆芸美術館・浦添市美術館 友好提携30周年



浦添市美術館

漆の里広場で披露された琉球舞踊演舞をご記憶の方も多いのではないのでしょうか。

30周年の節目にあたる今年、両館が相互紹介コーナーを設けることとなりました。当館では浦添市美術館のポスターやパンフレットなどをご用意しております。ぜひお立ち寄りのうえ、同館への理解を深めていただければ幸いです。

当館と、沖縄県の浦添市美術館が友好提携を結んで30年が経ちました。浦添市美術館は、琉球・沖縄の歴史や文化の紹介を柱として活動している美術館です。特に、琉球漆器の豊富なコレクションが活かされ充実した展示が常設されており、漆芸専門の当館との共通点があります。

漆を通じたご縁から、1992年6月1日に両館は友好提携を結びました。当館で開催した「琉球漆芸展」や、調印式当日に

また、10月2日には記念事業の一環として、輪島市文化会館にて沖縄の伝統芸能・組踊の特別鑑賞会が開催されます。優雅な歌舞劇をご堪能されてはいかがでしょうか。

【お問合先】

輪島市教育委員会 文化課

☎0768(22)7666

▼石川県輪島漆芸美術館友の会 日帰り見学会実施報告



大本山永平寺(福井県吉田郡永平寺町)

7月7日(木)、友の会による日帰り見学会を実施しました。

数日前から台風の進路が気になりましたが、心配とは裏腹に爽やかな風が吹き絶好の見学会日和になりました。見学先はよく候補地にあがる曹洞宗大本山永平寺と福井県立恐竜博物館を訪れました。大本山永平寺では青葉繁る参道を進み、雲水さんと酒井会長の説明の後、自由に見学。福井県立恐竜博物館では恐竜の世界に圧倒され古代のロマンを堪能しました。

参加者の方からは「どちらも一度、行ってみたいだったので、見学できてよかった」とのご感想をいただきました。充実した見学会となりました。



福井県立恐竜博物館(福井県勝山市)

イベント情報

65歳以上の輪島市民入場無料

9月18日(日)～9月25日(日)

アート&ポエム作品展2022

9月23日(金・祝)～10月2日(日)

会場 エントランスホール

クロストーク 山岸一男×寺尾健一

9月25日(日) 14:00～15:30(要予約)

会場 講議室

ふれて感じる、うるしの温もり企画

10月8日(土)～10月10日(月・祝)

会場 講議室

「いしかわ文化の日」無料開放

10月16日(日)

MOA児童作品展

10月22日(土)～10月24日(月)

会場 講議室

*予定は変更となる場合があります。
詳細はホームページをご覧ください。

展覧会関連グッズ

特別展「彫りを彩る一人間国宝 山岸一男の世界」展覧会関連グッズとして、チケットホルダーやポストカード、図録などをミュージアムショップで販売しています。

また、山岸一男先生もノミ入れとして愛用しているバラエティロールケースを会期中限定販売！ペンケースなど、お好みの用途にご利用ください。



※ノミは付属しません。

開館時間

9:00～17:00
(入館は閉館の30分前まで)

入館料

	個人	団体(20名以上)
一般	630円	520円
高大生	320円	210円
小中学生	150円	100円

アクセス

- ◎飛行機
羽田空港から約60分
※のと里山空港から車で約20分
- ◎車
金沢市内※のと里山海道利用＝約100分
(自家用車・大型バス無料駐車場有)
- ◎特急バス
金沢駅※北鉄奥能登バス・北鉄金沢バス
輪島特急線「輪島駅前」下車＝約120分
- ◎「輪島駅前」から
▶のらんげバス海コース「漆芸美術館」下車
▶徒歩約15分



〒928-0063
石川県輪島市水守町四十苅11番地
TEL 0768-22-9788
FAX 0768-22-9789
<https://www.city.wajima.ishikawa.jp/art/>

ご来館のお客様へお願い

■新型コロナウイルス感染症拡大防止の徹底のため、ご来館時にはマスクの着用、手指の消毒をお願いいたします。また、検温を実施し、37.5℃以上の発熱がある場合、入館はご遠慮いただきます。混雑時には入場制限を行うことがございます。詳細な取り組みにつきましては、事前にホームページ上で「ご来館の皆さまへ」をご確認ください。